

リミットを解き放たれたふたつの豪放なモンスターがこのボディに潜んでいる。
すなわち最強のミュージック・プロダクション環境がここに。

プロローグ

初めはやや手ごわいに違いない。このマシンの習熟には、単体のプロ用シンセサイザーに馴れる同等の正しいハンドリングを要求され、単体のプロ用シンセサイザーをマスターするまったく同じプロセスを必要とするからだ。しかし束の間のそうしたプラクティスは、やがて巨大な表現力、果てしない可能性、胸のすぐ快適な一体感となってアーティストたちに微笑みをもたらすことになる。コンポーズ、アレンジ、そしてシンセセンス&リアルタイム演奏。この一台はスタジオやマイルームのMIDIレコーディングの中心になる。そしてこの一台がライヴではMIDIシステム、プレイもサポートする新次元のマスター・シンセサイザーとなる。音

楽制作と音楽演奏のあらゆるアプリケーションの中心にミュージック・ワークステーションJV-1000。イメージネーションに対しパーフェクトな創造を求める人々に。

JV系シンセサイザー・ブロック

シンセサイザー部は18ビットD/Aによる音のリアリティと、実に28M Byte(16ビット・リニア換算)の膨大なウェーブ量で音のクリアティと音色のバラエティともに高い評価を獲得しているJV-80/JV-880のシンセサイザー・ブロックを踏襲し、さらにJV-1000にしての徹底した音の表現力の磨き込みとさらなる音色の追加など一段と音源性能を強化。内蔵ウェーブフォームは152種類(参照:別表)。プリセット・パッチは256音色を内蔵した。

●TVF・TVA・FXM、シンセサイズも強調:JV-1000の

基本となる音色の単位はパッチであり、パッチはトーンから作られ、トーンはウェーブを加工して創成。1パッチに対しては、最大4トーンを駆使できたため、そのサウンドはいずれも複雑かつ鮮烈な音色表現を約束している。このトーンを加工するプロセスがシンセサイ징。このブロックでは、ロジカルな構成でオペレーションの理解度の高さが定評のWG→TVF→TVA構成を基本に、強力なデジタル・フィルター機能やピッチ設定、2LFO(6ウェーブフォーム搭載)や精密エンベロープ設定などにより、ウェーブに思いのままの表情づくりが可能。加えてJV-80でお馴染みのシンセサイジングツール「FXM」も搭載。基本ウェーブフォームに特定の波形を掛け合わせるフリケンシー・クロス・モジュレーションにより、まったく新たな波形をつくり出す。こうして

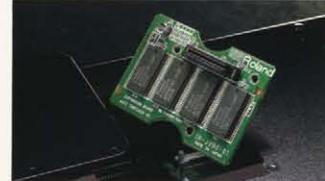
作成したトーンをもとに、トーンごとのペロシティ・レンジやエフェクトなどを指定してパッチを構成する。

●空間制御エフェクト全11種:シンセサイズの一部として重要なエフェクトには、空間表現を基本に厳選。コーラス3タイプ、リバーブ6タイプ、ディレイ2タイプを高品位にサポートし、さらに1/16ルагにより音に自然な心地よさを与えるアナログ・フィルルも搭載。

●MIDIブレイはパフォーマンス・モード:JV-1000の演奏表現力は、先のパッチとパフォーマンスの2モードをもっている。パフォーマンスは7つのパッチとリズム用音色のセット。これでひとつのアンサンブルを作ることができる構成である。MIDIシンセサイズのマルチ・ティンバー音源に、ライヴでは76鍵スケールをフルに生かしたスプリットやゾーニングで多彩な音色を割り



大容量音色拡張1 エクスパンション・ボード
SR-JV80シリーズ



たとえばシリーズNo.2の「オーケストラ」では一挙に大容量ウェーブ174種類とパッチ255種を拡張。簡単な装着で驚異的な音色追加と、最新の音色へのアップグレードを実現。

大容量音色拡張2 ボイス・エクスパンション・ボード
VE-GS1 



このコンパクトなボードそのものがGSフォーマット対応音源。搭載音色は大容量226音色。しかも本体音源とは独立して動作するため、演奏能力も一挙に56音ボリュームアップ。

大容量音色拡張3 サウンド・ライブラリー
SO-PCM1シリーズ



このカードで各楽器の多彩な表情を克明に表現させたPCMウェーブ群とそれをもとに構成したパッチ・データ群を供給。楽器系ごとにシリーズ化され、使いやすさも抜群です。

大容量音色拡張4 サウンド・ライブラリー
PN-JV80シリーズ



一枚のカードでインターナルやエクスパンション・ボードのウェーブを自由自在に駆使して制作された多彩なパッチ64種類を拡張可能。マルチ・ティンバー系も充実しています。